

厚生労働科学研究費補助金（難治性克服研究事業）
分担研究報告書

全国大学病院皮膚科および歯科口腔外科を対象とした重症型扁平苔癬の疫学調査

研究責任者 井川 健 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野 講師

研究要旨：扁平苔癬は、手背、四肢に好発し、慢性に経過し、組織学的にも特徴のある疾患であり、しばしば口腔内に難治性糜爛を形成することもある。今回、全国の大学病院皮膚科、歯科口腔外科を対象にしたアンケート調査を行った。その結果、扁平苔癬、重症扁平苔癬はそれぞれ外来患者全体の0.18%、0.01%を占めることが判明した。重症扁平苔癬は口腔内病変を伴うものが多く（82%）およそ70%の症例は再燃を繰り返し治療抵抗性であることが分かった。HCV感染の合併はおよそ20%にみられ、金属パッチテストは3割弱の症例で陽性であった。治療方法としては、ステロイド外用剤が最も普遍的に使用されていることがわかった。

A. 研究目的

扁平苔癬は、手背、四肢に好発し、慢性に経過し、組織学的にも特徴のある疾患であり、しばしば口腔内に難治性糜爛を形成することもあり、その診療には皮膚科医師、歯科医師共に参加する。

したがって、本研究では、皮膚科のみならず歯科をも対象にして、扁平苔癬、あるいは治療抵抗性で日常生活に支障をきたすような重症扁平苔癬の頻度や合併症、あるいは治療方法についての疫学調査を行い、現状を把握することを目的とする。

B. 研究方法

全国の国公私立大学病院皮膚科92施設、ならびに歯科口腔外科113施設を対象に別紙に示すようなアンケート調査を施行した。調査票の発送、回収はいずれも郵送にて行った。調査対象期間は過去3年間とした。

C. 研究結果ならびに D. 考察

アンケートの回収率は、皮膚科47.8%（44施設/92施設）、歯科43.4%（49施設/113施設）、全体で45.3%（93施設/205施設）であった。

扁平苔癬、重症扁平苔癬の外来患者に対する比率

皮膚科、歯科を総合した扁平苔癬患者は、外来患者全体の0.18%という結果であり、これは、2009年の「本邦における皮膚科受診患者の多施設横断四季別全国調査」（1）の数字（0.3%）と比較して大きく変わらない値であった。また、重症扁平苔癬は、外来患者全体の0.01%、扁平苔癬患者の中ではおよそ1割を占める、ということが判明した。なお、男女比については、扁平苔癬、重症扁平苔癬患者ともに、1.5倍から2倍程度、女性の方が多いという結果であった。

重症扁平苔癬の罹患部位

重症扁平苔癬は、粘膜、特に口腔内病変が多く見られることが特徴であった。また、脱毛が見られ

る例 (Lichen planopilaris) は少なかった (1.8%)。

重症扁平苔癬の合併症

重症扁平苔癬患者の 2 割弱に HCV 感染症が認められた。

重症扁平苔癬における金属パッチテスト

重症扁平苔癬患者の 3 割弱で金属パッチテスト陽性という結果が得られた。

重症扁平苔癬の予後

重症扁平苔癬は治療抵抗性で、再燃を繰り返す例が多いことがわかった (70%程度)。

また、重症扁平苔癬患者のうち、4%程度で経過中に局所の悪性腫瘍発生がみられた。

重症扁平苔癬に対する治療

重症扁平苔癬の治療として、皮膚科、歯科、どちらにおいてもステロイド外用が高頻度に行われていることがわかった。その他は、皮膚科と歯科で順位の違いはあるものの、頻度の高いもの上位 5 番目まではほとんど同様であった (ステロイド外用/全身投与、歯科金属除去、保湿剤)。なお、歯科においては、「その他の治療」において、アズレンスルホン酸ナトリウムによるうがいが多く用いられていることがわかった。

全体のアンケート回収率は 45%と少なめであったことが一つの問題ではあったが、扁平苔癬の全外来患者に対する比率はこれまでの報告と大きく変わるものではなかった。今回の調査で、扁平苔癬の中におよそ 10%の比率で、難治で日常生活に支障をきたすような重症型扁平苔癬が存在することが判明した。なお、この比率は皮膚科、歯科口腔外科どちらの集計でもほぼ同等であった。また、男女比については、扁平苔癬、重症型扁平苔癬共に女性の方が多いという結果であった。

注目すべき点は、重症型扁平苔癬の 4%の症例において局所の悪性腫瘍発生がみられたことである。

このことは、長期にわたる Follow 期間に、定期的な組織検査を行うことの重要性を示唆するものと思われる。

E. 結論

扁平苔癬は、皮膚科、歯科口腔外科の全外来患者の中で、0.18%を占めていた。その中のおよそ 10%が重症扁平苔癬と考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

該当なし

I. 引用文献

1) 日本皮膚科学会学術委員会. 本邦における皮膚科受診患者の多施設横断四季別全国調査. 日皮会誌 2009 ; 119 (9): 17

E 金属アレルギーの関与（パッチテスト陽性例）

- | | |
|--------|---|
| E-1 あり | % |
| E-2 なし | % |

F 治療についてよく使われるもの3つを選んでください

- 1 ステロイド外用
- 2 ステロイド局所注射
- 3 ステロイド全身投与（パルス療法のぞく）
- 4 ステロイドパルス療法
- 5 免疫抑制剤外用
- 6 免疫抑制剤全身投与
- 7 レチノイド内服
- 8 グリセオフルビン内服
- 9 光線療法（PUVA、NBUB療法）
- 10 血漿交換
- 11 免疫グロブリン補充療法
- 12 歯科金属の除去
- 13 保湿剤
- 14 その他（具体的に

G 重症型扁平苔癬の経過について

- | | |
|-------------------------|---|
| G-1 治療により改善がみられ、ほぼ再燃もない | % |
| G-2 治療に抵抗し、再燃を繰り返す | % |

****重症型扁平苔癬のうち局所に悪性腫瘍の発生がみられた例**

例